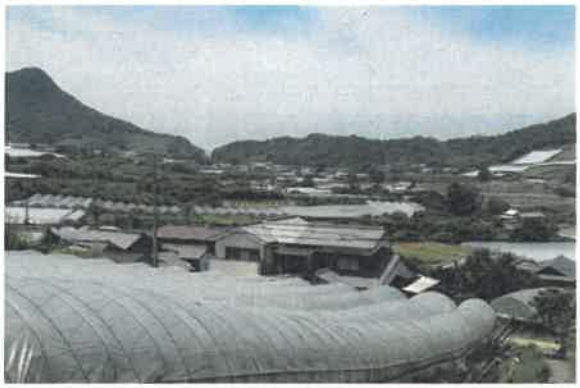
濃密個別指導による「シャインマスカット」の高品質・平準化への取組

■　ＪＡ香川県多度津ぶどう部会　■

（中讃農業改良普及センター　氏家英樹）

●対象の概要

ＪＡ香川県多度津ぶどう部会（部会員数62名、栽培面積10.5ha）は、古くから「デラウエア」の産地として奥白方、見立地区を中心に、最盛期には栽培面積が100haを超えていた。消費嗜好の変化により現在は大粒系の「ピオーネ」の割合が増加し、その他に「藤稔」、「ブラックビート」、「瀬戸ジャイアンツ」など、多彩な品種が栽培されている。「シャインマスカット」は現在22名が1.5haを栽培している。



多度津町奥白方地区

●課題を取り上げた理由

当部会は、100年を超える「デラウエア」の産地であったが、価格の低迷や需要の減少により、傾斜地園の廃園や他作物への転換が進み、年々栽培面積が減少する一方、意欲ある担い手においては「ピオーネ」等大粒系品種への転換が進んでいた。

品種更新が他産地より遅れたことから、定期的に大粒系品種の栽培技術講習会を開催し、部会員は一定レベルの基本技術を習得していった。

しかし、近年の温暖化の影響からか「ピオーネ」等の着色不良に悩まされていた。そのような中、県内外の産地で「シャインマスカット」が話題となり、生産者や市場関係者から同品種への問い合わせが増加していた。

しかし、新しい品種であり栽培技術が未解明な部分が多いことから、産地としてどのように推進するか方向性が定まっていないまま「シャインマスカット」の生産者が増え、出荷量が増加するに伴って果実品質のバラツキや下位等級品の比率が大きくなり、市場側からのクレームも増えてきた。

全国的にも「シャインマスカット」は期待の品種ということで、ブドウの大産地を中心に爆発的に植栽が進んでいることから、他産地に後れを取らないよう、果実品質の高位平準化に取り組む必要に迫られていた。

●普及活動の経過

１　品種別講習会の開催

「シャインマスカット」の栽培管理については、試験研究等の関係機関が連携して平成24年に指導者向け「栽培マニュアル」が、また平成27年には生産者向け「栽培しおり」が作成され、統一した栽培基準が示されていた。しかし、当部会は「デラウエア」が主力品種であったため、「シャインマスカット」の管理に必要な短梢剪定や花穂整形・摘粒作業の経験が浅く、「ピオーネ」や「藤稔」を栽培している生産者においても、「シャインマスカット」特有の縮果症やハダニへの対策に不慣れであったため、失敗事例が多く見受けられた。

そのため、ＪＡと連携し、管理作業技術が品種間で混同しないよう、品種を分けて重要な栽培管理ごとに講習会を開催した。

２　「管理見本」作成による濃密個別指導

「シャインマスカット」は「栽培しおり」に目標とする果房重および１房当たり車数・果粒数が示されていたものの、各生産者に房づくりのイメージが定着していないため、生産者ごとに房づくりが異なり、果房の外観（房型、粒張り、粒揃いなど）がバラつく原因となっていたが、講習会や個別巡回で基本的な説明をするだけでは生産者の意識はなかなか変わらなかった。

そこで、栽培園地を定期的に巡回し、それぞれ

の園地に見本の房を設けＪＡ担当者とともに花穂整形や摘粒、玉直しを行い、「管理見本」として生産者に実際に見せることで具体的な房づくり方法を周知するなど、基本的な管理についてきめ細かい個別指導を行うことで意識統一を図るほか「セルフチェックシート」を配布して園地内に置き、管理の時期を記入してもらうことで適期管理の徹底を推進した。

セルフチェックシート

３　目慣らし会の開催による格付け意識の統一

出荷果実の検査や格付けは集荷場でＪＡ職員により行っていたが、毎年その結果に不満を訴える生産者の意見があったことから、出荷前に検査員および生産者を集めて目慣らし会を開催、市場関係者にも立ち会ってもらい、格付け基準について納得されるまで説明した。さらに、荷造り作業中の各戸を可能な限り巡回し、格付けに対する意識統一を図った。

荷造り作業中の個別巡回指導

●普及活動の成果

１　果実品質及び格付けのバラツキ解消

基本管理、とくに房づくり方法の徹底指導を行った結果、県内他産地に比べて秀品率はまだまだ低いものの、多度津の「シャインマスカット」の市場評価が高まり、高単価で販売することができた。

表−１「シャインマスカット」等級比率の変化(%)

	赤秀	青秀	A
平成30年産	13.6	20.7	65.7
平成29年産	4.8	23.0	72.2

表−２「シャインマスカット」単価(赤秀、円)

	6房	7房	8房
多度津	3,284	3,429	3,035
県平均	2,764	2,799	2,747

２　栽培面積の増加

「シャインマスカット」の販売が順調であることに加えて、「デラウエア」や「ピオーネ」の販売単価が低迷していること等から他品種からの転換が進んでおり、「シャインマスカット」栽培面積は順調に増加している。

●今後の普及活動の課題

１　「シャインマスカット」価格維持の取組

「シャインマスカット」の全国生産量は、毎年１割程度増加している。また、多度津地域でも栽培の多い８月に出荷量が集中しており販売単価は下落傾向にある。その中で、小規模産地である当部会が他県産地の生産量やブランド力に対抗し、販売単価を維持するためには、基本管理の徹底による高品質果実の安定生産は当然ながら、現在よりも出荷時期の早い作型を組み合わせてさせることによって、価格維持に取り組むことが必要である。

２　「デラウエア」など既存品種維持の取組

「シャインマスカット」の販売単価が高値で推移していることから、産地内の意識も「シャインマスカット」に集まりがちになり、市場などから継続的に一定の需要のある「デラウエア」や「ピオーネ」の品質低下や面積減少に拍車がかかる恐れがある。

引き続き「ピオーネ」の高品質化への取組とあわせて、組織の強みを生かし、個々で栽培する「デラウエア」の面積は少なくても生産者が集まって量を確保し、100年に渡り築いてきた「デラウエア」産地としての多度津地域のイメージ向上に向け、普及組織として取組たい。